

# 病児保育奮闘記

(9)

子どもサポート H&K  
大石 仁美

## ネットの偉力、しみじみと

ホームページを検索しやすいように一新して10カ月。急激な変化はないにしろ、会員数がこの数年120人前後で推移していたのが、気が付くと150人近くにまで増えていました。じわっとその偉力が少しずつ目に見えてきて、う～ん やっぱり今の時代はネットじゃないと駄目なんだとしみじみ思ったことでした。

また入会者にも少し変化がありました。今までは勤務医さんがほとんどで、あと私学の教員と公務員さんがぼつぼつという感じでしたが、大手の企業にお勤めの方や銀行員さん、それから外国籍の方が、「ネットを見て」と言ってお見えになりました。やはり新しい風が吹き始めたようです。

開設当初から、ホームページは作っていたのですが、(デザインはおしゃれでかわいらしく身内で楽しむ分にはよかったのですが)、外部から検索しにくいというのが難でした。上位に上がるにはそれなりの手技操作があるらしく、プロに依頼してやはり正解でした。

チラシもずいぶん作りましたが、いくら配って

も効果はうすく、今必要としている人の目に留まらないかぎり、ただの紙屑のようです。私も新聞にはさんであるチラシは見ませんもの。かりに目に留まっても「そのうち・・・」なんて考えている人は中身はほとんど読まないです。「そのうち」が何時やってくるのか、予測がつかない。で、その時になってあわててネットで探す。そういう人はわりと多いです。そういうときはお話を伺って、今日だけ預かって欲しいという人には、会費の要らない他の施設を紹介するようにしています。

ただチラシも、保育園の説明会で、全員に配ってくれる園もあり、これはかなり有効で本当にありがたいことです。そんなわけでチラシは保育園に渡す分だけを印刷することにしました。

現在、登録会員を希望してこられる方は、やはり知人の紹介という方がいちばん多いですが、その方もホームページはきちんと読んで来られます。仕事を続けていくための担保を実に早い段階から準備をしておられるのです。仕事に対する前向きな姿勢は、仕事の専門性もあるでしょうが、人生の歩み方にあるのでしょうか。将来の生活設計が実

に丁寧です。一人で動ける妊娠中に見学に見えて、予約して帰られる方もいらっしゃいます。そうした方にとって、「子どもサポート H&K」は安心を担保できる最も使いやすい施設だと言えます。その意味で自信を持ってこの仕組み・・・つまり行政の支援に頼らない独自のあり方を堅持していこうと思っております。さてこの先どんな展開が待っているのか、不安とワクワク感の入り混じった心持がいたします。

## インフルエンザの嵐ふく

年末から温かい日が続き、年が明けてもコートなしで歩ける日々。暖冬も度が過ぎれば気味が悪いと思っていたら、一月半ばに急激な桁外れの寒波の到来。もしかしたら、そろそろやって来るとも思っていましたら、本当にやって来ましたが、寒さと一緒にインフルエンザが。一月半ほど流行の時期がずれたので、A型のあとにB型が流行るのではなく、AもBも同時進行。それも急激な広がり、あちこちで学級閉鎖の学校が続出。そうになると、学校が休みで行き場のない低学年の子ども達が困ります。

### 学級閉鎖で同窓会

2月のはじめ、同じ園を卒園した小学生が5人そろいました。それぞれ違う私学を受験した子ども達で、久しぶりに顔を合わせ、にぎやかなこと。こんなところで同窓会だなんて不思議なことです。が、学級閉鎖になったため一時保育でやってきたのです。さすが私学に行っただけあって、午前中は自主学习。「あっ、うちと同じや」とドリルを見せ合ったりして、漢字や計算問題をこなしていました。午後からは、ゲーム三昧。3DSとかいうゲーム機を持ってきていて、皆で横一列に並んで見えています。覗き込んでみると、鮮明でリアルな立体画像が目飛び込んできました。操作ボタンでまるで自分がその中の人物のように動き回ること

が出来るんですね。景色も実場面のように変わっていきます。「うひゃ～まるで異次元の世界でついていけないわ」玩具もえらく進化したものです。

「目が悪くなるから、一時間以上はダメよ。」

「うん、わかってる」そのうちゲームはトランプに切り替わり、点数をつけながら、きゃあきゃあ騒がしいことでした。こんな日が3日ほど続きました。

隣の部屋では乳児の世話に忙しく、小学生には手が回らないという状況でしたが、友達が集まったおかげで、勝手に遊んでくれて助かりました。食事とおやつを出して、あとは時々声掛けする程度でしたが、子ども等はそれで十分嬉しかったようでした。

### 保育園児も次々と



保育園児も次々やってきました。どの園も流行り始め、一人が完治しないうちにまた次の子がという具合です。A型に罹患した子は症状が激しく、40℃近い熱と嘔吐を伴う子もいて、目が離せません。幼いながらも母親が仕事で忙しいことを理解していて、「ママおしごと」とつぶやいて布団の中でじっと耐えているのです。なんともいじらしいことです。三日ほどで熱も下がり、元気に遊び始め、一安心というところですが、解熱後三日は登園できないため、引き続き病児保育室で過ごしま

す。こんなふうに、毎日入れ替わりつつ、5~7人の子も達がやってきて狭い部屋はいっぱいです。インフルの検査で（-）の子は別室にしないといけけないので、スタッフ3人で手一杯。引退宣言したジージも引っ張り出して、歌遊びや絵本の読み聞かせ等で小さい子のお相手をしてもらっています。私はわたしで、朝6時から子どもたちとスタッフの昼食づくり。出勤してからは、ケアと経過記録に目を通し、与薬や水分補給の準備。子どものおむつ替え。幼児のトイレ介助。合間を見てハンドタオルの洗濯やその他雑用など保育士の半人前は働きます。

「すごい！大繁盛やね」 いやいや、何事も程々が良いです。「程々って、どのくらい？」 目が届き、ゆったりケアできる2~3人かな。「そんなんでええの？」 そう。こんな異常事態はもうたくさん。この状態がもう一か月も続いているのです。忙しいというのは心が滅ぶというけど、全くその通りで、夜7時に片づけを終えると、もうへとへと。草花を愛でる等の感性は消失です。儲け？ そんなことはどうでもいいです。



今日は何人？

この日は幼児5人と小学生1人、それに発熱の乳児1人の計7人でした。はやく収束してくれることを祈るばかりです。

## もうすぐ春休みだあ～

ネットを見て新しく会員になられた方から、もう春休みの保育依頼が来ています。上の子は、保育園を卒園した後、小学校に入学するまでの期間。下の子は、初めて保育園に入るの、慣らし保育の期間預かって欲しいという依頼です。はやくも次の仕事の準備をしなければと背中を押されています。

春休みの一時保育は、この事業を始めた当初に親からの要望で始めたものですが、毎年希望者が多く、私たちも親たちの切実な思いに出来るだけ応えてきました。特に年度替わりで保育園が数日おやすみする期間、親たちも一番忙しい時期なのです。

元気な子たちを預かるので、それなりに準備が必要で、それで3月のはじめに通信で希望者を募り、人数と年齢をつかんでから保育計画を練り、物品の調達やら、保育者の確保やらに奔走しなければなりません。既に希望者を募る前からこちらのほうも申し込みが数件来ています。

時間の流れに体がついていけない今日この頃。でもやるしかない！と自分に言い聞かせながら、ひとつひとつ足を地につけてこなしていこうと思っている私です。